

21 24 あす

☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀	☀
31	31	32	28	30	29	30	29	30	30
21	20	22	21	23	22	23	22	23	23

週間天気

舞鶴	2日(水)	3日(木)	4日(金)	5日(土)	6日(日)
福知山	2日(水)	3日(木)	4日(金)	5日(土)	6日(日)

のち 一時々
5ミ未
5ミ以上

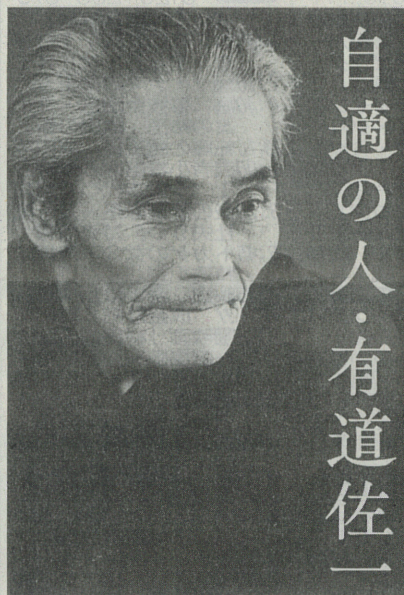
数字(上)最高気温
(下)最低気温
丸囲みは降水確率
白ヌキは50%以上
矢印なしは無風

このみは下に掲載

自適の人・有道佐一

蒲田正樹著 飯塚書店、1500円

京之読書 森



自適の人・有道佐一

綾部市出身の画家、有道佐一(1896~1983年)の評伝である。没後40年回顧展が綾部市のケンゼ博物苑と京都市京セラ美術館で開催され、「幻の画家」に光が当てられている。

パリ留学中、20世紀最大の彫刻家アルベルト・ジャコメッティ(1901~66年)に見いだされた。洋画家、小磯良平(1903~88年)らからの中央画壇への誘いを断り、綾部の山奥でひたすら山々を描き続けた。有道はこんなふう

たとえば、福知山市出身の田無文(1900~88年)で戦後間もないころに外相や首相を務めた芦田均(1887~1959年)。戦

前のことだ。有道宅で2人は酒をくみ交わしていたと推測される。元外交官の芦田に対し有道は「こんなところで時間を潰しているヒマなんてないやろ。アメリカにでも行って戦争が起らんように調整してこいや」と言ったという。

「幻の画家」実像に迫る

1964年の著書の中で、有道の次のような言葉を紹介している。「毎日カンバスに向かっ

臨済宗妙心寺派管長や花園大学長を務めた高僧、山

著者は綾部と東京を拠点にする著述家だ。有道の長男大作さん(87)の証言や数少ない文献などから、「幻

の画家」の実像に迫った。有道の作品がカラーで掲載されているのがありがた

有道がパリに留学したのは1935~36年。ジャコ

メッティとの出会いは、ちょっと滑稽な感じだったよ

うだ。

大作さんの証言によると、パリの街角で有道が絵を描くのを見知らぬ男性が見ていた。男性は片付けを手伝ってくれたのだが、有道のカバンを持って歩いて行く。有道はカバンを取り戻そうと追いかける。カフェで話したものの、有道はフランス語が分からない。渡されたメモを日本大使館で訳してもらったところ、男性がジャコメッティだと判明したらしい。2人の芸術家の出会いには異なる説があり、本書でも取り上げられている。

有道と小磯良平の友情も掘り起こされた。帰国した有道を神戸港に出迎えたのは小磯だけだった。喫茶店で小磯は「多少の蓄えができたので、困ったときは遠慮なくいつでも声をかけてくれ」と言ってくれた。有道は大作さんに「ほんとうに心に沁みる言葉だった。ありがたかった」と語った。有道がこう述べたのは、亡くなる前日の夜だったという。

【庭田学】